

# 情報も射撃も一体に 無法な戦争に参加も

車田政権がなぜ、敵基地攻撃能力の導入を断念したのか。直前にあるのは、中国を牽制した防衛ミサイル攻撃網「統合防衛ミサイル防護網」(IAMDR)に日本を巻き込み、軍備上、推進下に置くという米側の戦略です。その危険を鋭く突いたのが、日本共産党の論議です。

## 「IAMDR」導入

「国大などで、敵基地攻撃能力が、米軍と自衛隊が融合する形で一体化する」という、自衛隊の意向だ。

自衛隊と米軍は、自衛隊の米軍部隊を統合して、自衛隊の文書や日米共同防衛計画(2022年版)に、敵基地攻撃能力の導入に関して米軍との協力を盛り込むことになっている。これを指す。また、米軍のIAMDRに自衛隊が統合され、先制攻撃の一環を担う危険性を追及してきた。



米インド太平洋軍「IAMDR2022」の概要。インド太平洋地域の拡大と、自衛隊や自衛隊が防衛戦略として、自衛隊と米軍が統合して、自衛隊の米軍部隊を統合して、自衛隊の文書や日米共同防衛計画(2022年版)に、敵基地攻撃能力の導入に関して米軍との協力を盛り込むことになっている。これを指す。また、米軍のIAMDRに自衛隊が統合され、先制攻撃の一環を担う危険性を追及してきた。

# 日米 切れ目なく 融合

日米融合・一体の敵基地攻撃

シリーズ

■安保の文書(22・12・10)  
「わが国が反撃能力を保有することに伴い、弾道ミサイル等の対処と同様に、日米が協力して対処していく」(国家安全保障戦略) / 「情報収集を含め、日米共同でその能力をより効果的に発揮する協力態勢を構築する」(国家防衛戦略)

■日米2プラス2共同声明(23・1・11)  
「米軍との緊密な連携の下での日本の反撃能力の効果的な運用に向けて、日米間の協力を深化させる」

■日米共同声明(23・1・13)  
「日本の反撃能力及びその他の能力の開発及び効果的な運用について協力を強化する」

■防衛省防衛研究所「防衛白書(2022)」22年10月  
「日米共同防衛計画(2022年版)」

「すべてのプレイヤー・コーチが、同じプレーブックを持ち、一緒に訓練し、一緒に作戦を実行し、敵からは一つのチームとして見られる」  
「すべての同盟国やパートナー国が共有でき、2国間での防空計画に代わって、同盟を阻止するために、あらゆるセンサー、シューターを活用できるネットワーク構造を提案する」

## 浮かびあがる 敵基地攻撃の危険

サイル基地、軍用飛行機だけでなく、指揮統制機能、軍事基地を攻撃するミサイル、艦隊、海軍、空軍、空軍も攻撃対象としている。①「敵の飛行機やミサイルを離陸・発射の前段階の双方に打って敵艦、または無力量化する」と断言し、公然と「IAMDR2022」のメーンテーマであるセンサー、シューターの統合、ネットワーク化を主張している。

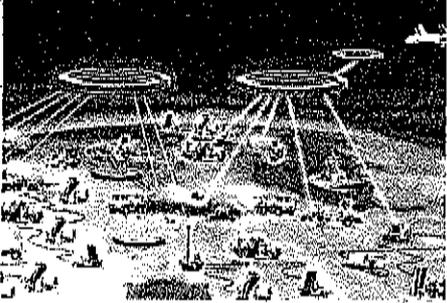


訓練する山梨県富士見飛行場。自衛隊員が訓練中。

と先制攻撃を宣言している。融合が必要だと主張している。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。

## 無法な戦争に参加も

と先制攻撃を宣言している。融合が必要だと主張している。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。



「すべてのプレイヤー・コーチが、同じプレーブックを持ち、一緒に訓練し、一緒に作戦を実行し、敵からは一つのチームとして見られる」  
「すべての同盟国やパートナー国が共有でき、2国間での防空計画に代わって、同盟を阻止するために、あらゆるセンサー、シューターを活用できるネットワーク構造を提案する」

「IAMDR2022」のメーンテーマであるセンサー、シューターの統合、ネットワーク化を主張している。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。

「IAMDR2022」のメーンテーマであるセンサー、シューターの統合、ネットワーク化を主張している。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。車田政権は「米軍のIAMDRとは別物」を掲げ、独自に推進する。